様式２

令和３年度　学校長による自己評価・総合評価

本年度は、よりよく生きるために学び続ける子どもの育成をめざし、「互いの尊厳を守る」学校づくりと、「協働の学び」による授業づくりを進めてきました。この学校づくりの経営ビジョンを、６月に職員と共有してスタートさせ、重点である「学びづくり」と「こころづくり」を２つの柱として、両面から取り組んできましたが、主体的で対話的で深い学びをめざす新しい学習指導要領の本格スタートとあわせて、職員の対話を基盤とした授業づくりへの意識の高まりや、友と関わりながら主体的に学ぶ児童の姿が伺えるようになってきました。

これまでの特筆的な取組を振り返り、今後の展望を考えます。

１　協働の学びを推進するにあたり、本年度はラーニングコミュニティを組織し、職員同士で研修を進めてきました。また、全職員で見合うことができた３つの授業によって、めざす授業の方向について共通のイメージを持ったり、課題を確認したりできました。職員アンケートからも、子どもの意識を大切にした学習問題や、マインドマップの取り入れ等、協働の学びへの取組意識が着実に高まってきていることが伺われます。

２　重点「こころづくり」では、一人ひとりが主役となれる学級集団づくりに立って、自己有用感の向上に取り組みながら、協働の学びによる授業改善を進めました。公開された４年２組の授業では、個を認め合える学級集団の中で、子どもたちが主体的に課題に向かう姿を見ることができました。この主体的な姿はどこから来るのか、今後の協働の学びの授業づくりのもう一つの鍵となるのではないかと思います。

３　食育として進められた１年２組の授業では、協働の学びにおける低学年でのペアの対話や４人での対話の可能性が示されました。小学校６年間協働の学びを積み重ねることは、児童にとって大きな力になるはずです。学年の発達に応じた対話の姿が明らかになることは、各学年の取組をいっそう進めるものになります。

４　「授業づくり研修会」では、共通の問題とジャンプの問題による授業づくりを意識して全職員で取り組みました。公開された５年２組の算数の授業では、対話の必要感を持たせた課題設定の大切さや、こうした授業づくりの積み重ねによって、主体的に学ぼうとする児童の育成の可能性を感じることができました。

５　地域の方が講師を務める授業（米作り、お祭り、家庭科、クラブ等）やボランティアによる登下校指導、読み聞かせ等、地域人財の活用による教育活動が進められました。交流の制限が度々かかったコロナ下にあって、こうした活動は、本校の教育の充実のためになくてはならないものであると同時に、めざす大人像を形成していく児童のために、ふるさと大町への愛着を育むためにも必要であることを、改めて認識する機会になりました。

６　特別支援教育においては、特別支援学級合同自立活動が始まりました。どの子も輝くことができるよう個に寄り添った支援を保障しつつインクルーシブ教育を実現していくために、全校体制で特別支援教育を今後も取り組んでいきたいと思います。

《評価から見える課題》

１　協働の学びの共通理解と日常的な取組みによる６年間の積み上げ

子どもの学びの尊厳を守っていくために、協働の学びを進めていく意義を全職員で共有し、日常的な取組とする。また、学年に応じた授業のイメージを持ち、６年間の積み重ねを進める。

２　カリキュラムマネジメントの着実な推進

協働の学びによる授業づくりと学力向上を一体的なものとして取り組むために、深い学びへつながる対話づくりを進めるとともに、各種調査も活用しながら学力向上を進める。

3　研修体制の確立、ラーニングコミュニティの機能向上

教職員が、それぞれの経験や自己課題に応じて授業力を向上していくことができるように研修の機会を保障していく。また、日々悩みを語ることができ次の日の実践に結び付けていくことができるラーニングコミュニティの機能を充実させていく。

4　自己有用感の向上

教室に入れない児童が、微増の傾向にある。個々に抱えるものは違うものの、どの児童へも自己有用感を高め、全ての児童が認められ輝く教室、安心して学ぶことのできる教室づくりをいっそう進めていく。合わせ、インクルーシブ教育の理念を全職員で共有し、分業ではなく、全校体制で特別支援教育に取り組む。

《具体的な取組の展望》

1　対話の質を高めていく

高学年を中心に対話を核とした授業が定着しつつある。対話による学びがさらに深い学びにつながっていくように、対話の質をいっそう高めていく。また、６学年の積み重ねを意識した各学年での対話の姿を明らかにする。

単元の構想　質の高い課題　マインドマップの活用
教師の役割　等

2　学校づくりとして、全職員で協働の学びを理解し、それに向けて経験年数や自己課題に沿って取り組める研修のシステムをつくる。

ミッション探索カードの活用　研修授業のための面談・支援　外部講師の活用
ラーニングコミュニティの充実（放課後の時間の確保・グループの規模）

3　探究の学びの充実

総合的な学習において教科横断的な学習を展開できるようにカリキュラム作りを進める。

4　コミュニティスクールによるボランティアの充実

個々にお願いしているボランティアの皆さんを、コーディネーターを中心に順次組織化し、職員とコーディネーターが柔軟に打合せができる仕組みをつくっていく。

5　全校体制での特別支援教育の推進

普通教室に在籍する配慮の必要な児童に対しても、適切な支援や自立活動、教育相談が受けられる体制を検討していく。

6　業務改善のいっそうの推進

授業を根幹とする学校づくりを進め、授業にやりがいと手応えを感じ、日々が充実していく職場づくりをめざす。

大町市立大町西小学校
校長　中原　　敏